

ベルサイユ体制と国際協調

1 / 1

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治

大正

昭和

今日の問い

大戦のあと、世界は戦争をくり返さないためにどんなしくみをつくったのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 ベルサイユ条約と国際連盟

戦後の世界

ベルサイユ条約

1919年、ドイツと連合国が結んだ講和条約。

民族自決

民族のことは民族自身が決めるという考え。

国際連盟

1920年に発足した、世界平和のための組織。

ワイマール憲法

1919年、社会権を初めて定めたドイツの憲法。

1919年、パリで講和会議が開かれ、連合国とドイツのあいだで**ベルサイユ条約**が結ばれた。ドイツはすべての植民地を失い、領土の一部を手放し、軍備を制限され、巨額の賠償金の支払いを義務づけられた。アメリカのウィルソン大統領は**民族自決**などを唱え、東ヨーロッパではポーランドなど多くの国が独立した。

世界平和を守るため、1920年に**国際連盟**がつくられた。本部はスイスのジュネーブに置かれ、日本は**常任理事国**となり、新渡戸稲造が事務局次長を務めた。しかし提案国のアメリカは議会の反対で参加せず、ドイツやソ連も当初は加われなかった。ドイツでは1919年、男女の普通選挙を定め、人間らしく生きる権利(社会権)を初めて取り入れた**ワイマール憲法**がつけられた。

2 ワシントン会議と国際協調

軍縮と不戦

ワシントン会議

1921～22年、アメリカが開いた軍縮の会議。

軍縮

軍備を減らすこと。

1921年から翌年にかけて、アメリカの呼びかけで**ワシントン会議**が開かれた。太平洋地域の現状維持を約束する四か国条約により、**日英同盟**は終わりとなった。中国の独立と領土の保全を尊重する九か国条約が結ばれ、日本は山東省のドイツの権益を中国に返した。

さらに海軍の主力艦の保有を制限する条約が結ばれ、**軍縮**が進んだ。1928年には、日本を含む多くの国が、国の政策としての戦争を放棄すると約束する**不戦条約**に調印した。こうして1920年代は、国どうしの話し合いで平和を保とうとする国際協調の時代となった。

条約	ねらい
四か国条約	太平洋の現状維持・ 日英同盟 の終わり
九か国条約	中国の独立と領土の保全を尊重
海軍軍縮条約	主力艦の保有を制限する

問いへの答え

1919年のベルサイユ条約でドイツに重い責任が課され、民族自決の考えで東ヨーロッパに新しい国が生まれた。1920年には国際連盟がつけられた。1921年のワシントン会議では軍縮が進み、日英同盟が終わるなど、国際協調のしくみが整えられ、1928年には不戦条約も結ばれた。

次は **ノート** で、下線に語句を書きながら確かめよう →

